

# 行政視察報告書

建設環境委員会行政視察

令和4年8月3日（水）～5日（金）

視察先 及び 視察事項	1 愛知県豊田市	水道管劣化予測システムについて
	2 静岡県静岡市	(1) 脱炭素先行地域（第1回）選定について (2) 静岡市水素タウン促進事業補助金について
	3 静岡県浜松市	株式会社浜松新電力について

## 豊田市 水道管劣化予測システムについて

近未来的に衛星で、範囲を決めて調べるとはAI時代の調査方法だと思いました。

今後、赤外線とかの熱感知システムが利用出来るようになれば、ピンポイントでの位置特定が出来そうだと思います。

しかし、調査費が高いとの事でもう少し先にならないとピンポイント特定にはならないのかと思いました。

### 考察

これまでは、管の分岐点にメーター付き止水栓を付けて、区間ごとに漏水を感知すれば漏水対策になるとは前々から思っていました。衛星感知が全国単位の費用分担で割安になれば、これこそがAI時代だと思います。

## 静岡市 (1) 脱炭素先行地域（第1回）選定について (2) 静岡市水素タウン促進事業補助金について

脱炭素問題は、世界的な問題となり、世界中が同じ方向を向いている事から路線を外れる事は難しい事になっている。

民間企業と合同で取り組む、脱炭素、水素タウンの先進事例が進んでいるように感じた。

### 考察

日本は、脱炭素問題を、石油、石炭、天然ガス等の高利用研究で世界でも大きくリードしていたが、CO2問題が急浮上して、脱炭素社会、SDGsの掛け声によって、石炭利用革命とも云える18世紀半ばからの産業革命、1950年からは石油が主役になり、その後、産業のエネルギーが再生エネルギーへと変遷しつつある。

この状況を捉え、機敏に対応出来る日本の適応力が、今回の視察によって、先進的な取り組みが、各県、市町村に供給され、必ず脱炭素、水素タウンを国を挙げて実現すると思えた。

## 浜松市 株式会社浜松新電力について

浜松市域 RE100 と云う浜松市の独自定義の再生エネルギー宣言を行い、市内電力量を浜松市内の再エネ電源で賄うとしたもので、RE100 とは、使用電力は再エネで発電された電力で賄うとした国際的な企業連合。

浜松市では、2018 年度実績で、大規模水力発電を除き再エネと使用電力量との比が、14.0%、水力発電を含めば、60.6%が自給されており、これを、2030 年度目標で、49.2%、78.7%とし、2050 年度には 49.2%の再エネ、森林の CO2 吸収量を加え 101.0%の発電比とする計画だ。

この基礎要件は、日本トップクラスの日照時間でのメガソーラーの寄与もあり、風力も生かせ、バイオマス発電も多くある事である。

この新電力会社へ金融支援は、地産地消エネルギーを謳い、協賛したパートナーシップ協定で結ばれた官民が出資している。

### 考察

電力の自由化以降、早くに電力供給に目をつけた功績は大きい。

この事で、真の自由化が図られれば、更に、浜松市の基礎生活、事業単価の低減がなされ、産業成長から人口増に繋がるのではないかと思われる。

云われれば、電気料金明細書に再エネ賦課金として支払っている FIT 再生可能エネルギーの固定価格買取制度が、こういった取り組みによってなくなる事が期待されると思う。

令和4年8月19日

松本市議会議長 芝山 稔 様

建設環境委員 太田 更三